

第1回

みんなで育ちあう保育創造の為にⅠ～保育者の悩み・質問から学ぶ～



講師 ◆岡村 由紀子 氏 ♠金子 明子 氏

Ⅰ ことば

♠子どもが発することばには、音声言語とコミュニケーションの基盤となることばがあります。ことばがどのように生まれ、発達をしていくのか、まず基本をお話します。

1) ことばの前のことばの時期

9・10か月ころ～ 子どもからコミュニケーションの発信が始まります。向かい合って顔を合わせたやり取りから、おもちゃなどの物を挟んでやり取りをする三項関係が結べるようになります。また《共同注視》といい、大人が注意（視線や指さし）を向けたものに対して子どもが気づいて見るようになることもでき、その指さしに気づくことが指向の指さしです。

1歳くらい～ 「アッアッ」と言いながら見つけた物を指さす自発の指さしが出、やがて行きたい方・欲しい物に向かって指さす、要求の指さしに変わります。指さしや身振りを使って子どもからコミュニケーションを取っていきます。

2) 音声言語の時期

1歳から1歳6ヶ月ころ～ 意味のあることばが増えます。今まで行きたい方・欲しい物に向かって指さしが、「見てみて」と自分の関心のある方を指さす、叙述の指さしになっていきます。

1歳6ヶ月～ 「〇〇はどれ？」と大人が訊くと指さして答える、可逆の指さしも出てくるようになります。このくらいの時期になると《表象機能の発達》により、見えなくてもそこにあることがわかったり、目の前にない物を思い浮かべたりできるようになります。コップの中に水が入っていないのに入っているつもりになって遊ぶことができるのは、この機能が発達したからと言えます。

2歳～ 2語文が出始め、語彙も爆発的に増え、「これ何？」と繰り返して質問するようになります。この時期《象徴機能の発達》により、そこにはない物を別の物によって表すようになります。積み木を電車に見立てて遊ぶ見立て遊びはその一例です。

3歳～ 会話が楽しくなり、3語文・4語文以上で話したり、ことばで自己主張をしたりします。

3歳後半～4歳6ヶ月 「なんで？」「どうして？」という質問が増えてきます。

4歳～ 「だって・・・だから」と自他の行動に思いや理由があることに気づき、伝えようとします。その裏返しとして、相手に何かを期待されていることに気づくようになります。それまでは自己主張をしていたのに、相手を意識し、みんなと比べて自分はどうかということがわかってくるので、自信がないのでやりたくないと消極的な姿を見せることもあります。

5歳～6歳 文章としてはかなり長く話せるようになり、一つの話題を続けようとする姿が見られます。豊かな話しことばになってくることが、その後の書きことばにつながっていきます。

3) 大人のことば（指示）がわかる

♠1歳児に「歩こうね」と声を掛けても室内を走り回ってしまう、と質問がありましたが、大人の言葉で自分の行動を調整できる自制心の形成は、4歳児頃と言われています。「約束ね」と言われて「ハイ」と返事をして、守ることは難しいです。ことばが「考える道具」となってから自分の行為を振り返ることができるようになります。

4) 外国語

◆ 音声言語の前段階が十分に育っているか、音声言語以外でやり取りができているかが重要です。表象機能、象徴機能の発達によるふり遊びや見立て遊びは、ことばの獲得とのつながりが大きいです。大人はことばの数で発達を意識してしまうところがありますが、ある資料によると「ことばの数というよりも1歳半からの可逆の指さしなどのやり取りができているかが大事な視点」とありました。

【 質問① 】理解の度合いや言葉の遅れなど外国ルーツの本児の発達や言葉の聞き取りに難しさを感じる。本児自身も思いを知らせてくるのだが、保育者に伝わりにくく把握できない時もあり、言葉を介してのコミュニケーションの難しさを感じる。(2歳児)

◆ 指さしや身振り手振り、表情などを通したコミュニケーション、つまりことばの前のことばの時代をどう豊かに過ごすかが重要です。

外国語でしゃべっても“感じる”ことは子どもにもできます。例えば、赤ちゃんにミルクを飲ませながら「ゴクゴクって飲むね」「お腹いっぱいだね」と声を掛けます。行動にことばが添付されることで、子どもは、感情を表すぴったりの言葉を覚えていきます。乳幼児期は感性感覚の時代です。ことばに頼らず、ことばの前の段階を豊かに接してほしいのです。遊びを楽しんでいる時の子どもは、心が躍動しています。その心にぴったりのことばを目と目を合わせて掛けていくことが、意欲を引き出す声掛けです。体感をくぐってことばを覚えるという働きかけが大事です。保護者とのコミュニケーションについては、うちの園では、家族や知り合いに日本語が話せる、ひらがなが読める人がいるかを探って、その人を介してコミュニケーションを取るようにすることもあります。

【 質問② 】発語がはっきりせず、相手に自分の思いが伝わらないため、悲しい思いをしてしまう子に対する支援について教えてほしい。(伝わらないと口を閉ざしてしまう)(4歳児)

◆ 集団保育や家庭のあらゆる場面で、子どもの心の動きに合ったことばを使っているかがことばの土台となります。例えば、お友達のを取ってしまった時、「なんで人の物を取っちゃうの？」ということばに出会うか「ほしかった？それ、使いたかったんだね」ということばに出会うかでは大きく違います。心にぴったりのことばとの出会いが多ければ多いほど、ことばが溢れ出てくるようになります。発語ははっきりしなくても、この子がどんなことを感じているかを保育者がことばにして声掛けするといいです。心にぴったりのことばがわかってくると子ども自身も伝えたいという気持ちになります。そして「あなたは、どういうことを言いたいのかな」と任せるのではなく「じゃあ、一緒に言う？」という心の支えも必要です。最初は保育者と一緒に自分の気持ちを伝えても、それを友達がわかってくれたとなれば、それが自信につながっていきます。

【 質問③ 】室内を走り回る姿がよく見られる。「歩こうね」と声を掛けてもやめない。どのような声掛けや援助をすればよいのか。(1歳児)

◆ 乳児期は、ことばによる行動のコントロールはできません。「危ない、危ない」と大きい声で言うのではなく、そばへ行ってむぎゅっと抱っこして「危ないからこっちね」と言うのが、保育です。ことばで行動をコントロールできるのは4歳児くらいからです。「ありがとう」も同じです。うれしかった時に「うれしいね」とことばを掛けた後、相手の子に「〇〇ちゃん喜んでいよ、ありがとう」と声を掛けます。そうすることで、子どもは自分の体で起きている感情を表すことばがわかるようになります。子どもの心の表現としてのことばに出会わせてほしいなと思います。

II こだわり

【 質問④ 】こだわりが出た子への対応。どこまでその子の意思を尊重すべきか。どこから集団に入れるべきか。(2歳児)

◆「こだわり」をどう見るかが関係します。1～2歳児に見られる「これじゃなきゃいや」とこだわる時期が、いわゆる「イヤイヤ期」です。自立に向かうとても大事な時期です。

また、緊張や不安の表れからくるこだわりもあります。いつもと違うことを嫌がったり新しい人がくると固まってしまったりします。こちらから見ると少しの変化も本人には大きな変化に感じられ不安になるのです。

興味や関心の対象としてのこだわりもあります。車のタイヤばかり見ているので、車に興味があるのかと思ったら、関心があるのはタイヤのみというように、関心の対象がピンポイントであることへのこだわりです。

2歳児のこだわりは、大人には手強いですが、発達という面ではとても大事です。子どものこだわる姿が見られたら「自分がはっきり出せるようになったね」「見通しがもてるようになったね」とプラスに捉えられるといいです。

◆発達障害の子の表れで「こだわることはいけないこと」と捉えられてしまうことがあります。年齢によっては、こだわらない子を心配しなくてはいけない時期があります。それが1～2歳の自我の芽生えです。大人が「手伝おうか」と言っても「いや」、「じゃあやって」と言っても「いや」と、どちらにしてもいやなのがこの時期で、大人からの独立宣言なのです。この時期の対応として「主体性」「選択肢」「大人の支え」の三つのキーワードがあります。

「どっちにする?」「自分で選んで素敵ね」と主体性を認めます。まず、靴を自分で履きたい、でもうまく履けずいやいや言っている子に対して、次に「お手伝いしようか?」と聞きます。すると大概の子は「いや」と言います。しばらく様子を見て、今度は「お手伝いすること、ある?」と聞くと「うん」と返事がきます。大人の支えがあって自立していくのです。大人の言う通りになりたくないというこだわりです。行動や心の主人公に向かって子どもが大きくなっていく姿なのです。だからこの時期にはこ

だわらない子を気にした方がいいのです。

不安の表れからくるこだわりと興味や関心の対象としてのこだわりへの対応は、なかなか難しいです。しかし子どものこだわりは、大好きな人に声をかけられた時、心が変わることがあります。周りの子どもの関わり、人間関係の質がそのこだわりをいくらでも和らげていきます。やはり、支えが必要なのです。

III 落ち着きがない

【 質問⑤ 】

ア：衝動的で、気に入らないことがあると手が出る。
イ：力の加減がわからず、大声を出したり、本人は軽く触れたつもりでも、友達からは「たたかれた」という捉えになってしまったりすることがある。
ウ：落ち着きがなく、食事中もじっとしてられないため、食べこぼしが多い。(5歳児)

エ：パニックになり、友達に手が出てしまう。(ふざけて友達を叩いてしまうことも増えた)

オ：まわりの雰囲気気づかず、大きな声で話し続けてしまう。(5歳児)

◆「力の加減がわからない」とは、自分の体がどのように動いているのか、自分の体のどこに力が入っているのかがわからないのです。体の動き具合や力の入り具合を自分の体を通してわかるためにたくさん動かすことが必要です。(参考資料『気になる子と言わない保育』[ひとなる書房])

◆ア：「手が出てしまう」とは見えることで行動・体です。「衝動的」「気に入らない」とは、見えない感情・心です。幼児期になればなるほど、自分の思い(=心)をことばで表現するようになります。感情で手が出てしまう時は、心を言語であらわす指導が必要になります。衝動的というのは心と体の間がないのです。ここでの指導のポイントは「気に入らない」ことが何かを聞き、ことばにすることです。この繰り返しをいろいろな場面で行うことで少しずつ心をことばで表せるようになっていきます。不適切を押さえるのではなく、気持ちと行動を分けて指

導することが大切です。教育とは、今ではなく未来に向かって子どもたちが発達していく力を信じていく仕事だと思います。

イ：まわりの雰囲気気づかず、大きな声で話し続けてしまう子に対しては、「今〇くん、大きいゾウさんの声だったよ。ここで話す時にはウサギさんくらいの声で話して」と、起きていることをわかりやすく体感で伝え働きかけていくとよいです。「本人は軽く触れたつもりでも、友達からは「たたかれた」という捉えになってしまったりすることがある」については、「～な気持ちだったんだね」と自己主張を認め、もう一方で「〇ちゃんはいやだったんだって」という他者理解を促していくことで、子どもは自己コントロールを覚えていきます。

ウ：席を立った時に「もうおしまいにするの？」と本人に訊きます。自分の体が今どういう状態だとお腹がいっぱいなのかを体感を通して考えてもらいます。もし「まだ食べる」と言うようでしたら「じゃあまだ座って食べようね」と伝えます。

食べこぼしが多い子については、手先の発達について考えたいと思います。体は原則的には中心から末端、そして上から下へとへと発達します。もしかしたら落ち着かないというより体の末端まで発達していないことが原因かもしれません。遊びを通して手先に力を入れることを意識し、それから手先を器用に動かせるようにしていくことが大切です。

エ：パニックを起こしている子どもにとってそれは、「困っている」ことなのです。だから私たち保育者は「いやだった？」「ほしかった？」と、気持ちにぴったりのことばをかけ、「じゃあこうしようか」と次の行動を変えていきます。ふざけて友達を叩いてしまうことが増えるのは、友達への関心が出てきた証拠です。「大好きだからやっているの？」とまず聞いて「でも〇ちゃんの顔見て。ちょっといやな顔しているよ」と伝え、相手の子にも「いやだったらいやって言おうね」と伝えます。

オ：子どもは楽しい時もつまらない時もわざと大きな声を出したくなります。保育者は子どもの心の

通訳になることが、とても大切な仕事だと思います。

IV その他

【 質問⑥ 】今年度の0歳児がまだ1名のため、ゆったり丁寧な保育ができている反面、抱っこする時間が多く、抱き癖かと気になる。この時期抱き癖は関係ないと学んだことがあるが、0歳児の対応についてお聞きしたい。(0歳児)

◆子どもが望んでいない時に抱くと、抱き癖になります。子どもが望んでいる時は、いっぱいいっぱい抱っこをしてあげてください。

【 質問⑦ 】自営業(飲食店)のため、大人の都合が優先され、生活リズムが不規則になってしまっている。食事はこの月齢には少し早いのではないかと思うものを与えている。もう少し子ども寄りになってもらえるようにするのに効果的なアドバイス方があったら知りたい。(0歳児)

◆園は集団保育、家庭は個というそれぞれのフィールドで子どもを見ています。保護者との連携は、保護者の状況、背景を見て、相手のフィールドで話してみましよう。保護者がやっていることを否定するのではなく、事実で「園でこんなことをしたらよかったですよ」と伝えると伝わりやすいです。保護者対応の原則は、複数の保育者で話を聞くことです。即答せず、傾聴した後、「よく考えて仲間と共有し、明日お返事させていただきます」と答えるようにしています。

保護者からの要求については、どこが本質で、私たちに何ができて何ができないのかを相手のフィールドで考え、わかりやすく伝えることが大切です。24時間子どもを育てていくという視点で保育しているのであれば、親とパートナーになるのは当たり前のことです。保育園・幼稚園の子育て支援とは、地域の親子への支援だけでなく、在園している子どもの育ちを家庭と連携して支援するためでもあります。私たちに課せられている課題はとても大きいので、私たち保育者は日々学びに向かっていくのだと思います。

第1回 焼津市保育者資質向上研修会
令和2年8月21日(金)
会場：焼津公民館 大集会室